

またもや死亡事故発生！

全職場から原因究明委員会運動を強化し

繰り返される事故の連鎖を断ち切ろう！

2009年12月20日、5時38分、東北新幹線上野～大宮間、荒川橋梁付近で交通建設の協力会社である永進工業の作業員が作業を終了し、線路から機材を荷揚げリフトで搬出する際、機材が落下、作業員の頭部を直撃し死亡するという痛ましい事故が発生した。

お亡くなりになった、協力会社社員のご冥福をお祈り申し上げるとともに、ご遺族の皆様に哀悼の意を表します。

私たちは2008年9月17日の黒磯駅構内感電死亡事故、同年9月25日の八戸線侍浜～陸中夏井間で起きた挟まれ死亡事故、今年に入り9月10日の東北新幹線仙台駅構内でのトロリ線での死亡事故で「繰り返される事故の連鎖を断ち切るために原因究明委員会を強化し職場から闘おう！」という見解を発し、安全確立のために全組織を上げて取り組むことを誓った。しかし、またもや事故は繰り返されたのである。

今回発生した事故の原因・背後要因は、まだ特定できていないが、作業時間が不足したゆえの「延伸申請」、作業日の予備日もなく、今年最後の作業ということであったと言われている。これまで何回も繰り返し議論を行ってきたが、作業優先体質は打破できていない。

会社は「グループ経営ビジョン2020－挑む」や「安全ビジョン2013」で安全を経営の最重要課題として位置づけ、グループ会社・パートナー会社社員を含めた死亡事故ゼロを掲げている。しかし、昨年発生した事故以来、未だに非常事態宣言が解除できず事故の連鎖が止まらない実態は、対策が対策として現場実態に即していない証左であり、パートナー会社との危機感が共有できないJR本体の責任でもある。

他方、JR羽越線で2005年12月25日、特急いなほ14号が脱線し、5人が死亡、33人が重軽傷を負った事故で、山形県警庄内署捜査本部は21日、業務上過失致死傷容疑で、JR新潟支社の運行管理責任者だった3人を書類送検した。事故を巡って国土交通省航空・鉄道事故調査委員会は「局所的な突風が原因、突風の予見は難しく、JRの運行管理には問題なかった」と調査報告書を公表しているが、ご遺族、ご家族のためにもJR東労組はさらなる原因究明と対策のために奮闘していく。

全組合員のみなさん、失ったかけがえのない尊い命の重さを直視し、今こそ全職場で原因究明委員会運動を強化し、現場の問題点を確定し作業優先から安全優先への体質変革を実現させていこう！

そして、当面する年末年始輸送の安全を確保し、「設備21」の見直しと安全風土の再確立に向け共にたたかおう！

2009年12月21日

東日本旅客鉄道労働組合